

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 壁高欄縁石取替工		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株	
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	金子 歩夢	
作業名称	縁石の取替	作業手順書	作成年月日	令和3年9月1日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	黄バト、材料運搬車		現場責任者		
			協力会社	会社名	
使用工具 機器 (大きさ大さ等は具 体的な寸法を記 す)	チッパー、ハンマードリル、台車、飛散防止ネット、鑿、接頭ハンマー		協力会社責任者		
	パール、コテ、発電機、延長コード、ディスクサンダー、スコップ、ゴムハンマー		作業順序		
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、手袋、防護メガネ、防護マスク、反射脚絆		1	準備作業	
			2	工事車両進入	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	普通自動車運転免許、準中・中・大型自動車運転免許		3	近接箇所と近接施工の確認	
	振動工具取扱作業者(特)		4	縁石撤去	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	近接箇所と近接施工の確認: 全員、縁石撤去: 2~3名、敷モルタルの敷設: 1~2名		5	敷モルタルの敷設	
	仮設置(段世修正): 2~3名、目地の埋込: 1~3名、片付: 全員		6	仮設置(段世修正)、設置	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日	令和 年 月 日	7	目地の埋込、舗設
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)			8	後片付け
				9	現場離脱

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○: 軽微 休業4日未満	△: 重症 休業4日以上	×: 極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能 性	○: めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1: 極めて小さい	関係者に対策の周知
	△: 時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2: かなり小さい	関係者に対策の指示
	×: かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3: 中程度	職長が確認
				△×、×△	4: かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5: 極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業									
ミーティング	健康状態の確認	作業責任者(職長)が確認							体調不良の作業員は規制内へ入場させない
	免許・資格等の確認	作業責任者(職長)が確認							
	KYMの実施	作業員全員で							図面を全員で確認し、埋設仮設物が無いことを確認する。
			健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物がない事を確認のうえ、出入庫する。						
車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認	運転手、全員							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○×	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	移動中一般車両と接触する。	○	△	○△	2	安	道路交通法を遵守する。区間内走行ルール・駐車ルールの厳守
確認作業	埋設物・仮設物の確認	管理用図面での事前確認	図面、現地の確認をせず損傷させる。	△	×	△×	4	公	作業員全員で確認する。(協議無しは保全許可済み)
縁石撤去	ハツリ作業	チッパー、ハンマードリルの使用	ハツリ片が飛散し、一般車に当たる。	○	×	○×	3	公	飛散防止ネットをハツリ箇所四方に設置する。
縁石撤去	ハツリ作業	振動工具の使用		※振動工具手順書参照					
縁石撤去	舗装部の撤去	チッパー、ハンマードリルの使用	ハツリ片が飛散し、一般車に当たる。	○	×	○×	3	公	飛散防止ネットをハツリ箇所四方に設置する。
敷モルタルの敷設	敷設	セメントの使用	セメントが目に入り、外傷を負う。	△	△	△△	3	安	目が入った時の洗眼水を常備する。
仮設置(段世修正)	二人作業	仮設置	仮設置を行わず、据えて、段高ができてしまう。	○	○	○○	1	品	仮設置を行い、段差の有無を確認する。
設置	二人作業	設置	縁石のぐらつきがあり、据えれていない。	○	△	○△	2	品	パールや、ゴムハンマーなどを使用し、調整する。
目地の埋込	目地埋め	モルタル、セメントの使用	セメントが目に入り、外傷を負う。	△	△	△△	3	安	目が入った時の洗眼水を常備する。
舗設	ハツリ部の埋戻し	合材の使用	転圧時舗装面に段差ができる。	○	△	○△	2	品	半貫等を使用し、直接たたかないようにする。
後片付け	清掃・後片付け	残材、工具の忘れのないように							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○×	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
現場離脱	工事車両退出	指定の出口で一旦停止	通過車両と接触する。	○	△	○△	2	安	通過車両の通行がないのを確認後退出。 工事車両を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事